

第五十九回 帝國議會 衆議院

抵當證券法案外九件委員會議錄(速)第九回

付託議案

抵當證券法案(政府提出)

不動產登記法中改正法律案(政府提出)

民

事

訴

訟

法

中

改

正

法

案

(政府提出)

農工銀

行

法

中

改

正

法

案

(政府提出)

北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)
貯蓄銀行法中改正法律案(政府提出)
日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)
農工銀行法中改正法律案(政府提出)
北海南道改正法律案(政府提出)
國稅徵收法中改正法律案(政府提出)
監督銀行法中改正法律案(政府提出)
農業銀行法中改正法律案(政府提出)
北海道改正法律案(政府提出)會議
昭和六年三月四日(水曜日)午後一時四十分開議
出席委員左ノ如シ大藏政務次官 小川郷太郎君
大藏省銀行局長 大久保寅次君
司法參與官 井本 常作君
司法省民事局長 長島 豊次郎君
司法書記官 森田 豊次郎君
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ抵當證券法案(政府提出)
不動產登記法中改正法律案(政府提出)
民事訴訟法中改正法律案(政府提出)
競賣法中改正法律案(政府提出)
民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)御同様ニ此法案ヲ成ルベク完璧ノモノ
ニシヨウト云フコトハ、皆ノ希望ニアリマシテ、今日マデ熱心ニ御審議ニナ

リマシタコトハ、敬意ヲ表スルノデアリマス、就キマシテハ質疑ハ終局シタ

シテ居ルノデアリマスガ、從來ノ審

議ノ經過ニ付キマシテハ、速記錄ニ

依ツテ承知致シテ參ッタノデアリマス

ガ、速記錄ニ載ツテナイ事、即チ今朝迄

ニ配付ニナラヌ速記錄ニ載ツタ分ハ未

ダ承知致シテ居リマセヌ、ソレ故ニ或

ハ多少ノ重複ヲ來スカ存ジマセヌガ、十

分ニ雅量ヲ以テドウゾ御許シヲ願ヒマ

ス、第一ニ抵當證券法ニ付テ司法省政

府委員ニ御尋ね致シタイ、此法律ハ司

法大臣ノ御説明等ニ依リマスト、不動

產抵當者ガ抵當債權ヲ資金化スル爲デ

アルト云フコトヲ言ハレマス、又抵當

證券制度ノ創設ハ、不動產抵當債權ノ

證券化デアル、斯ウ云フコトヲ申シテ

居リマス、資金化ト云フコトモ證券化

ト云フコトモ結局同一デアリマス、所

ガ他ノ政府委員等ノ御答辯ノ中ニ、不

會議
昭和六年三月四日(水曜日)午後一時四十分開議
出席委員左ノ如シ
委員長 荒川 五郎君
理事 小峰 滿男君
理事 篠原 陸朗君
理事 勝田 永吉君
理事 大崎 清作君
理事 板谷 順助君
小村 俊一君
藍川 清成君
本多真喜雄君
關口 志行君
牧野 賤男君
磯部 清吉君
中谷 貞頼君
名川 侃市君
中田 駿郎君
農工銀行法中改正法律案(政府提出)
北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)
貯蓄銀行法中改正法律案(政府提出)
日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)
國稅徵收法中改正法律案(政府提出)
同月三日委員山田又司君辭任ニ付其ノ補闕トシテ牧野賤男君ヲ議長ニ於テ選定セリ
同月四日委員石崎敏行君辭任ニ付其ノ補闕トシテ中谷貞頼君ヲ議長ニ於テ選定セリ
出席政府委員左ノ如シ抵當證券法案(政府提出)
不動產登記法中改正法律案(政府提出)
民事訴訟法中改正法律案(政府提出)
競賣法中改正法律案(政府提出)
民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)

リマシタコトハ、敬意ヲ表スルノデアリマス、就キマシテハ質疑ハ終局シタ

シテ居ルノデアリマスガ、從來ノ審

議ノ經過ニ付キマシテハ、速記錄ニ

依ツテ承知致シテ參ッタノデアリマス

ガ、速記錄ニ載ツテナイ事、即チ今朝迄

ニ配付ニナラヌ速記錄ニ載ツタ分ハ未

ダ承知致シテ居リマセヌ、ソレ故ニ或

ハ多少ノ重複ヲ來スカ存ジマセヌガ、十

分ニ雅量ヲ以テドウゾ御許シヲ願ヒマ

ス、第一ニ抵當證券法ニ付テ司法省政

府委員ニ御尋ね致シタイ、此法律ハ司

法大臣ノ御説明等ニ依リマスト、不動

產抵當者ガ抵當債權ヲ資金化スル爲デ

アルト云フコトヲ言ハレマス、又抵當

證券制度ノ創設ハ、不動產抵當債權ノ

證券化デアル、斯ウ云フコトヲ申シテ

居リマス、資金化ト云フコトモ證券化

ト云フコトモ結局同一デアリマス、所

ガ他ノ政府委員等ノ御答辯ノ中ニ、不

動產ノ資金化ト云フコトモ言フテ居ル
ノデアリマス、此不動產ノ資金化ト云
フコトハ、抵當債權ノ資金化ト云フコト
ト、同一ノ意味ニ於テ申サレテ居ルノ
デアルカ、文字其モノガ示ス如ク、抵當

外レテ居リマス、私ノ御尋ハ債務者若クハ債務者ニアラザル抵當槽設定者、是等ノ者ノ便宜ガ圖ツテアル趣旨デアルカドウカ、一般ノモノ、御尋シタノデハナイ

○長島政府委員 利益ハナイト申スヨリ外仕方ハアリマ
セヌノデアリマス 置キタインデアリマスガ、債務關係ガ
出來テ仕舞ツテカラ、抵當證券ヲ出スト

ニ於テ、多少ノ利益ガアルト云フコ
トデアルガ、私ノ質問ハ此證券ヲ發
行スル場合ニ裏書讓渡ヲスル、融通スル
場合ニ債務者ガ如何ナル利益ヲ得ル
カト云フ御尋ニアリマスカラ、其方面

債權ノ資金化デアッテ、不動産ト云フ廣イ範圍ノモノデハナイト云フ御趣意ナノデアリマスカ、ソレヲ一ツ伺ヒマス

○森田政府委員　此抵當證券ヲ發行シ
マヌニ付テハ、債務者ト債權者トノ間、
及ビ抵當物件ニ貸シマス第三者トノ間
ニ、抵當證券ヲ發行シテ宜イト云フ特

云フコトニナレバ、結局債務者ノ利益ニハナラヌダラウト思ヒマス、債務者ノ特約同意ヲ得ルト云フコトニナッテ居リマスカ、抽象的ニ申シマスト、其土

ニ利益ガアリマスナラバ御説明ヲ願ヒ
○長島政府委員 ヨレハ今申シマシタ
ヤウナコトガ實際ニ非常ニ利益ニナル
ニ思ニテ、銀行カラ金ヲ借りテ

○森田政
府委員 不動産全部ノ資金化
デハナイノデアリマシテ、抵當權ト其
抵當權ニ依ツテ 擔保サレル 債權ヲ證券

約ノアル場合、其特約ガナケレバ、此抵當證券交付ノ申請ニ同意ヲシテ居ル場合ニ限リテ出スコトニナツテ居リマシ

地ヲ利用シテ、サウシテ其土地元金ヲ融通シヨウト云フ人ノ全體カラ言へバ、利益ニナル譯デアリマスネ、融通ガ

ト思ヒテス 銀行カラ金テ借りテ居
テ、手嚴シクヤラレルト云フヤウナ時
ニ其銀行融通ガ附ケバ寛大ニシテ吳ヒ

化スル、サウシテ融通ヲ好クスル、斯ウ
云フ趣旨ノ法案デアリマス

テ、其黒ニ付テハ債務者ノ利益モ慮ツテ
アルノデアリマス、其同意ヲ致シテ居
ナイ者ニ對シテハ、證券ハ出サナイノ

仕易クナルカラ、——併シ現ニ抵當權ヲ設定シテ仕舞ツタ債務者ニ就テ言へバ、場合ニ依リマスト斯ウ云フコトガ

ルト云フヤウナエトバ 非常ニ債務ニ
ニハ利益ダト思ヒマス、既ニ借りテ仕
舞ツテ居ル者ノ利益ハ、サウ云フ點ニア

ハ明瞭ニナリマシタ、其趣意ニ於テ
此法案ヲ考ヘテ見マスト云フト、此
法案ハ抵當債權者ノ爲ノミニ必要ナ法
案デアッテ、抵當權設定者ニ付テノ便宜
ハ圖ヅテナイト云フコトニ諒解致シテ
宜シウゴザイマスカ、ソレヲ伺ツテ置キ
マス

○牧野委員 債務者ガ債権者ニ同意シタル場合、若クハ抵當權設定ノ場合ニ同意アル時ニ證券ヲ發行スルコトハ、私モ承知致シテ居リマス、ソレデ同意若クハ證券發行ニ同意シタコトニ依テ、債務者又ハ抵當權設定者ガ、如何

起り得ルト思ヒマス、辨済期限ガ來テ居ル、來テ居ルガ抵當權ヲ實行シテ直グニ競賣ニ行カウト云フトキニ抵當證券ヲ出セバ、結局其債權ハ、外ノ債權者ノ所ニ持ツテ行ケマスカラ、抵當證券ヲ出シテ吳レ、バ待ツテヤルト云フヤウナコトデ、寛大ノ處置ヲ仰グノニハ、抵當證

ルノテアリマシテ、債務者ト云フ言葉
デ押ヘレバ、債務者全體ノ利益ニナル
ト思ヒマス、御問ノ趣旨ニ於テ既ニ抵
當權ヲ設定シテ仕舞ッタ者ノ利益ト云
フモノハ、今申シタヤウナ寛大ニ扱ツテ
貰ヘル、詰リ債權者督促ヲ防グ手段ガ
一ツ殖ヘタト云フコトニ、私ハナリハ

○森田政府委員　抵當證券ヲ出スコトニ付テハ、ソレ自體ハ債權者ノ爲デアリマスガ、サウ云フ風ニナリマシテ債

ナル便宜ヲ得ルカト云フコトヲ、此法
案ハ認メテ居ルノデアルカ、ドウカト
云フコトヲ御尋シテ置キマズ

券ヲ出スト云フコトニ依ツテ、餘計ナ融通ガ附クト思ヒマス、既ニ抵當權ヲ設定シタ債務者ノ利益ト云フコトハ、債

シナイカト思ヒマス
○牧野委員 私ノ言葉ガ少シ足リナカ
ツタト思ヒマスガ、裏書人ハ皆債務者

ス 権ガ證券化サレマスト云フト、一般ニ
金ガ借リ良クナル、ソレデ一般ノ人ノ
利益ニモナル、斯ウ云フ趣旨デアリマ

○森田政府委員 抵當證券ガ出ルト云
フコトニ依ツテ、債務者ニドウ云フ利益
ガアルカト云フコトノ御尋ナラバ、ソ
レハ利益ガナイト申スヨリ外仕方ガナ

務者全體ノ利益ト云フ方ニ一ツ御著眼
ヲ願ヒタク、吾々ハ債務者一般ノ利益
ニナルト思テ居リマス

ニアリマス、只今仰セノ通り、抵當權ヲ設定シタル第一債務者ト申シタラ一
番ハツキリト致シマスガ、最初ノ債務者ガ、抵當證券ヲ發行スルコトニ同意シ

○牧野委員 只今ノ御答辯ハ少シ的ガ

イ、其債權者債務者ダケノ關係ナラバ、

務者が期限ノ延長ヲシタイト云フ場合

テ、登記ヲシテ金ヲ借りタ、而シテ其筆

○長島政府委員 第三者ニ付テ申シマ
スト、結局金ガ借リ好クナルト云フ利
益ガアルト思ヒマス、抵當證券ヲ出セ
バ不動產ノ融通性ガ多クナリマスカ
ラ、金ガ借リ好クナル、不動產ヲ持ッテ
居ツテモ、從來ハ持腐レノヤウナ恰好デ
アリマシタケレドモ……

○牧野委員 サウ致シマスルト、言葉
ヲ換ヘテ申シマスト云フト、第一債
務者カラ申シマスト云フト、金ガ借
リ好クナルト云フコトハ、取リモ直サ
ズ、不動產其物ノ融通ガ好クナルト云
フ考デアルト諒承シテ宜シウゴザイマ
スカ

○長島政府委員 サウ解シテ宜シウゴ
ザイマス、更ニ先キノ政府委員ガ不動
產全體ノト云フコトヲ申シタノハ、不
動產ノ所有權ヲ證券化シテナイト云フ
意味ヲ申シタノデアラウト有ジマス、
不動產全體カラ眺メレバ融通上、ソレ
ハ便利ニナル譯デアリマス

○牧野委員 サウスルト云フト、是ハ
言葉ノ相違デハナイ、觀念ノ相違ダ
ト私ハ見ルノデアリマスガ、司法大
臣ノ御説明ニ依ルト云フト、抵當債
權ヲ資金化スル上ニ於テ有效簡便

ナル方法ガ現在ノ制度ニ於テハナ
イ、故ニ抵當證券制度ヲ創設シテ不
動産抵當債權ノ證券化ヲ圖ルノガ
本法案ノ目的デアル、斯ウ言ハレタ、
此法カラ見ルト云フト、既ニ抵當權ヲ
設定シ、抵當權ヲ取ツタ債權者ノ便宜ノ
爲ニ抵當證券ト云フモノハ必要デア
ル、抵當權ヲ設定スル人ハ即チ證券ヲ
發行シヨウガ發行スマイガ、要スルニ
金ヲ借入ル其者ノ便利ハ、チットモ此法
案ニ見テ居ナイヤウニ思フ、御説明デ
ハサウ考ヘラレル、然ルニ只今ノ御説
明ニ依リマスト云フト、此抵當證券ヲ
發行スルト云フコトノ道理アル解釋ニ
依ツテ容易ニ金ガ出來ル、即チ不動産融
通ニ依ルト云フコトハ、第一債務者ノ
不動産ノ融通方法デアルヤウニ思フ、
司法大臣ノ御言葉ガ足リナイノデアリ
マスカ、觀念ガ違ツテ居ルノデアリマス
カソレヲ確メタイ

シタノダラウト思ヒマス
○牧野委員 只今マデノ説明ニ對シテ
ハ、要スルニサウ云フ抵當證券ヲ發行
スレバ、金ガ借り良イト云フタゲノ、
第一債務者ノ便利ニナルヤウニ了承致
シマシタガ、サウ了解シテ宜シウゴザ
イマスカ

○長島政府委員 大體サウト思ヒマス
ガ、或ハ大藏省ノ政府委員カラ、補足的
ノ説明ガアルカモ知レマセヌガ……

○牧野委員 此際大藏省ノ政府委員カ
ラ何カ御説明ヲ……

○大久保政府委員 大體別ニ補充致ス
所モアリマセヌ、司法省カラ御答ニナリ
ツタ趣旨デゴザイマス、尙ホ多少ナリ
トモ附加ヘルコトハ、輒轉融通スルト
云フコトカラ、結局債務者側ニアッテ
モ、金利ガ安クナルト云フ傾向ニナル
デアラウト思ヒマス、旁々サウ云フ風
ナ趣旨テ以テ、此法案ハ出來タヤウナ
次第デゴザイマス

○牧野委員 只今ノ御話ニ依リマス
ト、結局利息等ガ安クナルト云フコト
ハ、此法律デハ見テ居ナイノデアリマ
スカ、ドウデス

○大久保政府委員 此法律ニ直ニサウ
云フヤウナコトヲ規定シテアルト云フ
趣旨デ申上グタノデナク、段々サウ云
フ風ニ勵イテ行ケバ、サウ云フ傾向ニ
ナルノデアラウト云フ趣旨ヲ以テ、此

○牧野委員 其點ハ諒解致シマシタ、
ソコデ大藏省ト司法省ノ政府委員ニ
共同ニ御尋ヲ致スノデスガ、只今マ
デノ御答辯ニ依リマスト云フト、吾々
ノ考ニ依レバ不動産ノ所有權其モノヲ
證券化シタ方ガ一番便利デアルト云フ
コトニ到著スマイカト思ハレル、此點
ニ對シテ最初法案ガ提出セラレマシタ
トキニ、名川君カラ司法大臣ニ質問ガ
アリマシタ、之ニ對スル長島民事局長
ノ御答辯ニ依レバ、ソレハ不動産ノ所
有權ト云フモノハ、登記制度デアル、ソ
レヲ證券化シテ融通スルト云フコトニ
ナルト、登記制度ヲ破壊スルト云フヤ
ウナ御答辯ガアリマシタ、所ガ私共ノ
考ニ依レバ、證券ガ融通シテモ、登記ハ
登記デ、幾ラモスル方法ガアラウト考
ヘマス、隨テ今御尋スル趣意ハ、不動產
ノ所有權其モノヲ證券化スルコトヽ、
抵當權ヲ證券化スルコトヽ、ドウ云フ
相違ガアルカト云フコトガ、一ツトモ
ウーツハ不動產其モノヲ證券化スルコ
トノ反對理由ハ、登記ノ制度ヲ破壊ス
ル虞ガアルト云フコト以外ニ、何カ別
ニナル理由ガアルノデアルカ、ドウ
カ、之ヲ御尋シタイ

抗辯ヲ打切ルコトガ出來マセヌカラ、唯融通ノ樂ニナルノハ登記ヲシナイデ
濟ム、登記所ニ行ツテ手續ヲスルコトナ
クシテ濟ムト云フコト以外ニ、所有權ヲ
譲券化シテモ大シタ實益ハナイノデ
ハナイカ、而モノレニ依ツテ第三者ガ、
其所有權ノ內容等ヲ知ル方法ガアリマ
セヌカラシテ、第三者ノ方カラ言ヘバ
非常ニ不便ニナツテ、而モノレ程融通ハ
便利ニナラナイ、唯、登記ノ申請ガ樂ニ
ナル程度ノモノデアラウト思フノデア
リマス、抵當證券法ニ依リマスレバ、結
局裏書ノ制度ニ依ツテ順々ニ行キマス
モノデアリマスカラ、茲ニ抗辯ヲ打切
リマシテ、所謂日本ノ登記ノ公示主義
ト云フモノヲ補ヒ、非常ニ複雜シタ制度
テ參リマス、所有權ノ證券化ト云フモ
ノハ、矢張同ジク手形ノ裏書ト云フコ
トニナリマスト、非常ニ複雜シタ制度
ニナリマスカラ、先づ抵當權ト云フコ
トデ、専ラ金ノ融通ヲ便利ニシタラ宜
イデアラウ、現在デモ所有權ヲ簡單ニ
移スト云フ方ノ不便ヨリハ、金ヲ借り
ル方ノ材料ニスルト云フ不便ヲ痛切ニ
吾々ハ感ジテ居リマスカラ、登記ノ根
本制度マデ破ツテ其處ニ行ク必要ハナ
カラウ、斯ウ云フ考デアリマス

係シタ點ガ非常ニ重大ナ點デアルト私
ハ考ヘテ居リマス、其點ニ付テハ司法
省側カラ御答ニナツテ居ル次第デアリ
マスガ、吾々ノ方デモ主トシテ不動產
ノ利用ヲ進メタイト云フヤウナ點カラ
考ヘテ居ル次第デアリマス、所有權ト
云ヒマスト、地券制度ト云フヤウナモ
ノ、復興ト見ナケレバナラヌト思ヒマ
ス、今日其處マデヤツテ、ドノ位ノ實益
ガアルカト云フコトニ付テハ、寧ロ反
對意見ヲ持ッテ居ル次第デアリマス、各
種ノ點ニ關聯致シマシテ、經濟上ニモ
少カラヌ變革ヲ見ルヤウナコトニナリ
ハシナイカト、考ヘテ居ルヤウナ次第
デアリマス

考デアルカ、所有權ヲ證券化スルコト
ガ宜イカ、抵當權ノミヲ證券化スルコ
トガ宜イカ、其經濟的觀察ニ付テノ御
考ヲ承リタイ

○大久保政府委員 今日ノ所デハ土地
其モノヲ證券化スル地券ト云フ形ニナ
リマスカラ、抵當證券ミタイナモノデ
抵當證券ヲ融通ニ置クト云フノト、ド
チラガ經濟上宜シイカト云フ御質問ダ
ツタカト思ヒマス、抵當證券ト云ヒマス
ノガ今度案ニ載リマシタ趣旨デアリマ
ス、吾々ハ其效用ニ付テハ先般來申上
ゲタ次第デアリマス、土地ノ固定ヲ防
ギ、金融ノ上ニ非常ニ便利ト云フ趣旨
デ、是ガ出來テ居ルノデアリマス、地券
其モノ、制度ヲ設ケマシテ、ソレニ伴
フ長所短所ハ色々ノ方面ニ觀察セラレ
ルカト思ヒマスガ今仰セノ法制ノ方ヲ
別ニ致シマシテモ、地券ト云フモノ、
關係ハ土地其モノヲ證券ハ或ハ兼併ヲ
招クニ至ルトカ、經濟上色々ナ點カラ
見マシテ、議論ガアル所ノヤウニ承知
致シテ居リマス、今日吾々ノ方デハ地
券ト云フモノニ付テハ別段經濟上實行
シタイト云フ風ナ趣旨ニハ考ヘテ居ラ
ヌ次第デアリマス、今日最モ必要ト思
テ居リマスノハ、擔保付不動產ヲ、出
來ルダケ資金化シタイト云フ要望ガ、
大分多イヤウデアリマスカラ、其目的
ヲ達スル爲ニハ、抵當證券法ト云フモ

ノガ一番時宜ニ適シテ居ルデアラウ、
斯ウ云フヤウナ趣旨カラ、此法案ヲ考
ヘタ次第デアリマス
○牧野委員 多少霞ヲ隔テ、物ヲ見ル
ヤウナ感ガアルノデアリマス、適切ニ
私ニハ響カナイ、私ノ御尋ネ申上ゲル
趣意ハ、抵當債權ヲ證券化スルト云フ
コトハ、無論融通ノ方法ニハ相違ナイ、
抵當債權ト云フモノ、根本ヲ考ヘテ見
レバ、此處ニ抵當權設定者ガアル、抵當
權設定者ト云フモノハ一ツノ融通ヲ致
シテ居ル、ソレガ根本デアル、故ニ所有
權其モノヲ證券化スルコトハ抵當權者
ノ融通ヲ便利ニスル爲メ、モット進ンデ
所有權其モノ、融通ヲ簡易ニスル方法
デアル、之ニ對シテ地券ト云フコトヲ
申サレテ居リマスガ、是ハ本會議ニ於
ケル我黨ノ名川君ノ質問ニ對シテモ、
地券ト云フ言葉ガアッタ、私共ハ地券ト
云フ觀念ハ持ツテ居リマセヌ、所有權ヲ
證券化シテモ地券デハナイノデアル、
ヤハリ登記ト併用シテ居ルト考ヘテ居
ル、ツマリ出來ルダケ簡易ナル融通方
法ヲ講ズルト云フコトノ一ツノ手段ト
シテ、所有權ヲ證券化スルト云フコト
ヲ申シテ居ル、此所有權ヲ證券化スル
ト云フコトノ經濟上ノ見地ト、抵當債
權ノミ證券化スルト云フ經濟的見地
ト、之ニ付テノ御考ハドウデアルカ、斯
ウ云フ融通ノ方法ニ付テ伺ツテ居ルノデ

テ登記官吏ガ抵當權ノ變更、消滅又ハ

更正ノ登記ヲ完了シタルトキハ抵當證券ノ記載ヲ變更シ」とアル、是モ十六條ト同ジコトデ、抵當證券ノ所在ガ分ラヌ場合ニハ、矢張分ラヌコトニナルノデアリマセウカ

○長島政府委員 其通りデアリマス
○牧野委員 二十五條ニ「低當證券

所持人ハ元本ノ一部又ハ利息ノ支拂
アリタルトキハ證券ニ其ノ金額及受
領ノ年月日ヲ記載シ且之ニ記名捺印スル
コトヲ要ス」、斯ウアリマス、之ニ依

ルト一部ノ辨済ヲ遂ゲテ居ルヤウニ考
ヘラレマスガ、債權者ノ方カラ證券ヲ
所持シテ居ルト云フコトヲ通知シテ居
ル場合ニハ、是ハ分ルカラ宜イガ、債權
者ガ通知シナイ場合ニ於テハ、債務者
ハ全ク此一部ノ債務辨済ノ便宜ヲ失フ、

スウ解釋シテ宜イノデアリマスカ

○長島政府委員　流通性ヲ謀メタ以
ハ、多少不便ガアルコトハ已ムヲ得マ
セヌガ、利子ノ支拂ハ寧ロ所持人ノ古
カラ持ツテ行ツテ要求スルノデアリマス
カラ、多クノ場合ニ於テハ分ルコト、
存ジマス

○牧野委員　今申シタノハ一ツノ分
派デスガ、モウ一ツノ分派ノ方ハ先
程御尋ネシタ證券ヲ發行シテモ、其所
有權ヲ處分スルコトガ出來ル、斯ウ云
フ御答辯デアツカノデスガ、ソレハサウ

デアルカモ知レヌ、ソコデ其所有權ヲ思フノデアリマス、是ハ想像デアリマ

處分シタ場合ニ於テ、所謂物權ノ第三
取得者ト云フモノガ出來ル、是ハ第三
取得者ノ滌除權ニ付テハ名川君カラ本
會ニ於テ御尋ヲシテ、之ニ對スル御答
辯ガアツタノデアリマスガ、此抵當證券
スガ、サウ云フ譯デアリマスカラ、サウ
云フ場合ニハ恐ラクハ第三取得者ハ債
權ヲ辨濟シテ、サウシテ其モノヲ綺麗
ニシテ取得スルダラウト思フノデアリ
マス、併シソレハ想像デアリマシテ、表

ヲ獲得シタ場合ニ於テ、滌除權ヲ行ハ

答辯デハ不透明デアリマシタカラ、モウ云フヤウナ想像カラ、サウ云フヤウ
ウ一應適切ナル法律的根據ヲ御伺ヒシ
ヌ、殊ニ第三取得者ハ抵當證券ガ發行
タイ

○長島政府委員　是ハ法律的根據ト云
フヨツハ、寧口實祭止ノ根據デアリマ

シテ、御手許ニ差上ゲテアリマス表ニ
依リマシテモ、實ニ増價競賣ノ數ハ僅
カナノデアリマス、抵當權ガ第三取得
者ガアリマスレバ、常ニ滌除ノ通知ハ
致サナケレバナラヌノデアリマス、ソ

ハ 非常ニ僅ナナノテアリ、スナニ
局ハ滌除ノ申立ト云フモノハ非常ニ僅
カノモノト見ナケレバナラヌノデアリ
マス、察スル所、抵當權ノ附イテ居リマ
スヤウナ土地ヲ買フ場合ニ於テハ、抵
當權ノ額ガ土地ノ額ヨリモ非常ニ少イ
場合デナケレバ、殆ド買ハヌト思フノ
デアリマス、サウ云フ場合ニハ第三取
得者ハ、抵當權ノ債權ダケヲ差引イタ
額デ買ヒマシテ、態々滌除ノ申立ヲシ
ナケレバ困マルヤウナモノハ買ハヌト

如何デスカ

○長島政府委員 第三取得者が第三者
トシテ辨濟致スコトハ出來ルノデアリ
マスカラ、サウ云フ方法デ此抵當權ヲ
除イテシマヘバ宜カラウト云フノデ、
此案ハ出來タノデアリマス

○ 物別委員
私ノ質問ノ據當證券ノ
讓受請求權ヲ認メルコトニシタラ、

極メテ簡便ニ行ケルト考ヘルノデアリ
マスガ、其點ハ如何デスカト云フノデ
ス

ノ所持人ニナルト云フコトハ、ソレガ
消滅スルカドウカト云フコトモ問題
ニナリマスシ、サウ云フヤウナ關係カ
ラ、ソレハ認メマセヌデシタ

ノ疑問ハ諒解シタモノト、諒解ノ出
來切ハツキツナノモノトガ致シマシ

タ、尙ほ念ノ爲ニ御伺致シタイノデア
リマスガ、具體的ニ申シマスト、第一條
ニ抵當債權者ノ爲ノミニ證券ヲ發行ス
ルト云フ主義ヲ書イテ居ルガ、債務者
ノ爲ニモ此抵當證券ヲ發行スルト云フ
ヤウナコトニ修正サレタナラバ、此法
案ト何カ抵觸スル所ガアリマスカ、詰
リ抵當債權者ガ抵當證券ヲ發行スルナ
ラ、債務者モ抵當證券ヲ發行シテ、俺ハ
某ニ抵當ヲ入レテアルケレドモ、オ前

ノ方ニ借替ヘタイカラ、債務者カラ債務者ニ持ツテ行ツテ、融通ヲ容易ニシヨウト云フノデスガ

○長島政府委員 其意味ニ於テハ修正ニ反対デアリマス、ソレハ前カラ度々申上ゲマシタヤウニ、所有者ニ抵當證券ヲ渡スト云フ制度ヲ執ツテ居リマセヌ、一寸現行法制ト旨ク合ハヌノデアリマス

○牧野委員 只今ノ御答ハ詰リ形式ニ
於テ出来ナイト云フヤウニ承ッタノデ
アリマスガ、債務者ノ爲ニ抵當證券ヲ
發行スルト云フコトノ經濟便宜ハ、
大藏當局ニ於テハドンナ御考デアリマ
セウカ

○長島政府委員 私カラ御答ヲシテ足
リナイ所ハ、大藏當局カラ御答ガアルト
ト思ヒマス、結局所有者ニ交付致シマ
シテモ、所有者ガ金ヲ借リルトキニ、債權
レヲ使フノガ必要ナノデアリマスカラ、
ラ、ソレナラバ金ヲ借リルトキニ、債權
者ニ交付ヲ申請サシテモ同ジコトニナ
リハシナイカ、結局サウ云フ時ニハ債
權者ニ話ヲシテ、債務者自身ガ出シテ
欲シイ時デアリマスカラ、名義ガ所有
者ニナツテモ、債權者ニナツテモ、多少ノ
違ハアルカモ知レマセヌガ、殆ド同ジ
ダラウト思ヒマス

證券ノ融通ヲ見テ居ツテ、實際ニ於テハ恐ラクハ御經驗ガナイノダラウト思フ、不動產ノ抵當デ金ヲ借リルモノハ、タッタ一遍デハナイ、何遍デモ借リル、十萬圓ノ價值ノアルモノヲ一萬圓ノ抵當ニ置ク場合ト、ソレカラ土地ガ圓ニナル場合モアル、サウ云フ時ニ債務者ノ爲メノ抵當證券ヲ發行スルト云騰貴致シテ一萬圓デアッタモノガ十萬円ニナル場合モアル、サウ云フ時ニ債務者ノ爲メノ抵當證券ヲ發行スルト云フト、十萬圓ニナッタ場合ニ十萬圓借リテ來テ、一萬圓返ス便宜ガアル、斯ウ云フヤウナコトガ即チ債務者ノ爲ニ必要デアリ、而シテソレガ非常ナ不動產融通ノ極ク便宜ノ方法デアルト考ヘル、之ヲ一々債権者ノ意思ノ發動ニ俟ツト云フコトニナツテ、債権者ノ言フコトニナリガ行ハレルト、債務者ハ何時デモ不利益ナ立場ニ立ツ、斯ウ云フコトニナリマスカラ、債務者ガサウ云フ場合ニ於テ債権者ノ同意ヲ得テモ得ナクテモ、借替ガ出來ル方法ヲ認ヌル趣旨ニ於テ、債務者ノ請求ニ依ッテ證券ヲ發行スルト云フコトニセラレタラ如何デアルカト思ヒマス、サウ云フコトヲスルト本案トドウ云フ祇觸ヲ來シマスカト思ヒマス

○牧野委員 ソレハ債権者ガ違フノデ
ス、第一債権者ガ別ニ抵當權ヲ設定
シテ持ツテ居ルコトハ、是ハ分ッテ居
ル、所ガ債務者ハ他ノ債権者ヲ見付ケ
ル、最初抵當ニ置ク時ハ一萬圓デアッ
タ、サウシテ一萬圓借リタイト云フ場合
カラ、今度十萬圓借リタイト云フ場合
ニ、最初ノ第一債権者ガ同意シナイ時
ニハ登記其他ノコトハ出來ナイ、即チ
辨濟ト云フ一ツノ方法ヲ債務者ハ執ル
ヨリ外ナイ、其時ニハ債務者ガ他ヘ行ツ
テ融通シテ來テ、サウシテ其金ヲ返サ
ウト云フ時ニハ、抵當證券ヲ發行セラ
レテ持ツテ居レバ、是デ金ヲ貸セルト云
フコトガ、容易ニ進行シ得ル、斯ウ云フ
便宜ガアル、其債権者ト云フノハ即チ
第一債権者ト別ナ債権者デアリマス
○長島政府委員 ソレハ第一抵當權ヲ
設定シテアッテ、第二抵當權者ガ金ヲ借
リヨウト云フ時ニ、抵當證券ヲ發行シ
テ貰ツテ、サウシテ債権者カラ金ヲ借リ
レバ宜イノデアリマス、唯、所有者ガ
發行シテ貰フカ、債権者ニ賴ンデ發行
シテ貰フカノ違ヒデ、所有者ガ發行シ
テ貰ツテモ、債権者ガ受取ッテ吳レナケ
レバ仕様ガナイカラ、其債権者ト所有
者ガ落合ツテ、抵當證券ガ交付サレル場
合デアルナラバ、サウ云フコトニナリ

○牧野委員 一寸諒解ニ苦シムノデア
リマス、債権者ガ抵當證券ヲ發行ス
ル、是ハ當然デス、サウ云フ法律ナラ
債権者ガ抵當證券ヲ發行シテ、債務者
ニモ同一ナモノヲ持タセルト云フ意味
ニ於テ、債權者ノ意思ガ加ハルコトナ
シニ、債務者ガ別ノ金ヲ才覺シテ來テ、
債權者ニ辨濟スル便宜ヲ持チ得ル、其
才覺ヲスル場合ニ第一債權者ノ意思ヲ
必要トスルト云フコトガ債務者ヲ拘束
スルコトニナル、サウ云フ趣意ニ於テ
債務者ノ請求ニ依ツテ發行スルト云フ
制度ヲ御認メニナツタナラバ、此法案ニ
ドウ云フ影響ガアルカ伺ヒタイ

○長島政府委員

思ヒマス

デアリマスカラ、手續上慣レナクテハ
困ルト云フ趣旨デ限定シタノデアリマ
ス

○牧野委員

私ハ大體ニ於テ他ノ委員

諸君ノ御尋ヲシタ以外ノ私ノ諒解致

シタイ點ダケ御尋致シタノデアリマ
スガ、此法律ノ實施ニ依テ不動産ノ抵

當權附ノ債權ト云フモノガ資金化スル

豫想ハ如何程ニナツテ居リマスカ、是モ

既ニ御答辯ガアツタコト、思ヒマスガ

一寸伺ヒマス

○長島政府委員 參考書ヲ取寄セマシ

テカラ……

○板谷委員 第一條ノ債務省ガ申請シ

タ場合ニ於テモ抵當證券ノ發行ヲ許スコ

トニ付テノ御意見ヲ承ッタ際ニ、政府委

員ノ御答辯ハ法制上ソレハ非常ニ困難

デアル、或ハ場合ニ依テハ民法ノ根本

ヲ變ヘナケレバナラムト云フヤウナ、

餘程重大ノヤウナ御答辯ガアリマシ

タ、今ノ牧野君ノ質問ニ對スル長島政

府委員ノ御答辯ハ、債務者ノ發行デモ

債權者ノ發行デモ結局ソレハ債權者ニ

行クコトデアルカラ同ジコトデアルト

言ツテ、法制上ノ困難ニ付テハ何等觸レ

尋シタノハ新ニ抵當ヲ付ケル場合ニ於

テ居ラヌノデアリマス、ソコデ私ガ御

尋シタノハ舊借ヲ持ッテ居ル人ガ債

權者ノ同意ヲ得ナケレバ出來ナイト云

思ヒマス

フコトニナツテ居ルケレドモ、安イ利子
ニ肩代リスル機會ガナイカラ債務者ノ
要求シタ場合ニ於テモヤルノガ寧ロ便

利デハナイカ、然ルニ法制上ノ困難ガ
アリ、或ハ民法上ノ根本ヲ變ヘナケレ
バ出來ナイト云フ御答辯ガアツタ、ソレ

ニ對シテ今ノ御話デハ債務者ノ方ハ結

局債權者ニ行クノダカラ、同ジダト云

フヤウナ意味ノ御答辯ガアツタガ、法制

上ニ付テハ何等困難ハナイノデアリマ

スカ

○長島政府委員 其點ニ付テ御答スレ

バ、債務者ト云フモノガ必要ガナイ場

合ニ抵當證券ヲ發行スルト云フヤウナ

コトハ、殆ドナカラウ、金ヲ借リル時

デナケレバサウ云フコトハナイ、前ニ

ウニ異議ヲ言ハセタリ何カシナケレバ

ナリマセヌ、公示主義ヲシナクテ、獨逸

ノヤウニ登記ダケヲ信用スルナラバ別

デアリマスガ、是ハ大イナル困難デア

ル、併ナガラ假ニ困難デナイトシテモ、

結果ハ殆ド同ジデハナイカト云フコト

ヲ申上ゲタノデアリマス

○板谷委員 モウ一言確メテ置キマス

ガ、或ハ異議ヲ言ハセナケレバナラヌ

トカ云フ手數ガアルデアラウガ、法制

ラレタデスガ、此法律デハ一番モ二

番モナインデスカラ、無論抵當物ノ價

格ガアル時ニハ、當然二番抵當ニ付テ

モ證券ガ發行出來ルト云フ御解釋デス

所有權ノ證券ヲ言フノデハナイノデ
ス、債務者ニモナゼヤラヌカト云フ御

尋ハ、第一抵當權者ニヤツタ同ジ證券

ヲ言フノデス、ソレガ登記ガ公示主義

ダカラ違フト云フノハドウ云フ譯デ

ス

○長島政府委員 付シマセヌデシタ、

但シ司法省内ノ委員會デアリマスガ、

ソレニ依ツテ立案ヲ致シマシタ

○中谷委員 物權ノ絕對權ヲ債權者ニ

與ヘヤウトスルガ如キ重大ナル法制上

ノ變革ハ、曾テ世界ノ法制ノ上ニ於キ

マシテ斯ノ如キ大膽ナル規定ハ、其類

例ヲ吾々ハ見ナイ、斯ウ云フ重大ナル

変革ヲスル場合ニ於テ、我國ノ最高ノ

権威者ヲ網羅シテ居ル所ノ法制審議會

ノ議ヲ經ズシテ、之ヲ突如トシテ茲ニ

提案サレタコトハ、私ハ頗ル遺憾ト致

シマス、唯漫然司法省内ニ於テ研究シ

タト云フヤウナコトデアツテハ、此重大

法案ヲ取扱フ上ニ於テ理解ガ出來マセ

ヌ、ドウ云フ譯デ民法、商法ニ至大ノ關

係ヲ有スル本法案ノ提出ニ際シテ、法

制審議會ニ付議シナカツタノデアルカ、

其理由ヲ御説明願ヒタイ

○長島政府委員 私少シ申落シマシタ

ガ、司法省ノ委員會デハ學者等モ這入ッ

所カラモ暗ニ分ルコト、思ヒマス

○中谷委員 各委員並ニ今日ハ又牧野
委員ヨリ詳細質問ガアリシタカラ、

民法並ニ商法ニ一ノ重要ナル變更ヲ來
ス規定ヲ含ム譯デアリマスガ、是ハ法

共債務者ノ請求ニ依テ發行スルト云

フ證券ハ抵當證券ヲ言フノデス、無論

ス規定ヲ含ム譯デアリマスガ、是ハ法

制審議會ノ議ニ付シテ其議決ヲ經タノ

デアリマセウカ

○長島政府委員 別段規定ハアリマセ

カ、何カ規定ガアリマスカ

○長島政府委員 私少シ申落シマシタ

ガ、司法省ノ委員會デハ學者等モ這入ッ

テ吾々ト一緒ニ共同シテ、研究シタノ

デアリマスシ、其前ニ實業家カラ相當澤山ノ意見ヲ大藏省デ徵シテ居タノデアリマス、其材料デヤッタモノデアリマス、モウ一ツハ根本方針ハ、大藏省ニ設ケラレマシタ金融制度調査會ノ方ニモ諮ツテ居ル次第デアリマス、是ハ意見ノ相違デアリマスケレドモ、成程法制上ハ相當ノ變革ト存ジマスガ、併ナガラ是ガ非常ニ債權者ニ利益デアッテ、債務者ニ酷ナモノト思ツテ居リマセヌ、是ハ前カラ度々申上ゲタ通リデアリマス、是ハ中谷委員トノ見解ノ違ウ所デアリマスガ、私共ハサウ思ツテ居リマス

○中谷委員 前ニモ政府委員ヨリ御話ガ一寸アリマシタガ、要スルニ本法案ハ實業家、銀行家等ガ自分等ノ有シテ居ル所ノ不動産ニ關スル固定債權ヲ整理センガ爲ニ、債務者ヲ死地ニ陥レマシテ、債務者ニ非常ナ損害ヲ與ヘナガラ、此法案ヲ急遽提出シタニ違ヒナイ、又銀行家ノ意思ニ依ツテ斯様ナ案ヲ發案致シマシテモ、一般國民ノ利害ニ付キマシテ、慎重ノ態度ヲ以テ攻究スペキ任ニアル所ノ司法省ガ、斯ウ云フ重大案ニ付キマシテ、之ヲ法制審議會ニ付議シナイト云フコトハ、是ハ司法大臣ト致シマシテハ、重大ナル責任デアリマス、吾々ガ司法大臣ノ出席ヲ求メ

○長島政府委員 ソレハ抵當證券ガ出雲フコトニナッテ居ル、之ニ對スル御意見ヲ承ツテ見タイト思フ

法大臣ニ對スル責任ヲ、私ハドウシテモ問題ニ付キマシテ、事務官ト押問答ヲモ問ハナケレバナラヌト信ズルノデアリマス、ソレデドウモ斯ウ云フ重大ナシマシテモ、唯法律技術ノ上ノ爭ニナリマスノデ、洵ニ不本意千萬デアリマスノデ、淘ニ不本意千萬デアリマタ次第デアリマセヌ

タ所以モ其處ニアルノデアリマス、司

法大臣ニ對スル責任ヲ、私ハドウシテ

モ問ハナケレバナラヌト信ズルノデア

考ヘテ居リマセヌ、若シ根本論デアリ

マセヌケレバ、抵當證券ガ發行サレタ

ガ故ニ、特ニ抵當權者ノ債務名義ナシ

マセヌケレバ、抵當權者ノ債務名義ナシ

ルノデアリマス、細カイ議論ハ此際省

略致シマスガ、一般ノ債權債務ノ場合

ニ強制執行ガ出來ルト云フコトニナッ

タ次第デアリマセヌ

スガ、併シ一二ノコトヲ承ツテ置キタイ

ト思フノデアリマス、一體抵當權ト云

ガ公正證書ニ依ル債務名義トカ、判決

物權、之ヲ債權化シマシテ、其債權者

ガ公正證書ニ依ル債務名義トカ、判決

等ノ國家ノ決定ヲ俟タズシテ直ニ強制

執行ガ出來ルト云フガ如キコトバ、私

ハ法制ノ上ニ許スコトガ出來ナイト考

ヘマスガ、此點ハ如何デアリマスカ、即

チ抵當權者ハ物權者ナルガ故ニ此絕對

權ヲ許容シ得ラレルモノデアラウト思

フ、其抵當權ガ輾轉シテ一般債權者ノ

手ニ移ツタ場合ニ於キマシテハ、普通世

界ノ法制ノ上ニ於キマシテ、是ハ當然

ニ此給付ニ付キマシテハ、國家ノ決定

ヲ俟ツテ、之ヲ強制スベキモノデアルコ

トハ當然デアル、然ルニ本法ニ依リマ

スト、直ニ債權者ガ強制執行ガ出來ル

ト云フコトニナッテ居ル、之ニ對スル御

務者ガ元本ノ支拂ヲ爲サザルトキハ辯

止メマス、儲テ第三十條デアリマスガ、

是ハ他ノ委員ヨリ御質問ガアッタト思

ヒマスガ、即チ「抵當證券ノ所持人ハ債

務者ノ世界法制ノ趨勢ニ於テ、斯ノ如キ

殘酷ナル法律ガ日本ニ行ハレルト云フ

コトハ、實ニ私ハ奇怪千萬ト思フ、成程

裏書人ヲ認メル以上ハ斯ウ云フ規定

ハ必要デアリマセウガ、私ハ遡ツテ斯

ウ云フヤウナ債務者ヲムザノト殺シ

スル上ニ於テ、斯ノ如キ規定ヲ作ッタト

云フ御答辯デアラウト思ヒマスガ、併

シ是ハ非常ニ個人ノ經濟生活、個人ノ

權利義務ノ上ニ於テ容易ナラザル變革

ヲ來ス非常ナ危險ヲ與ヘルモノト考へ

マセヌケレバ、抵當證券ガ發行サレタ

ガ故ニ、特ニ抵當權者ノ債務名義ナシ

ルノデアリマス、細カイ議論ハ此際省

略致シマスガ、一般ノ債權債務ノ場合

ニ於テハ強制執行ノ規定ガアッタカラ

ト云フテ、必ズシモ期日通リニ強制執

行ト云フモノガ行ハレルモノデナイ、

大部分、千中ノ九百九十九迄ハ三月以

上、一年以上經過シナケレバ、サウ云フ

執行ト云フコトハ行ハヌモノデアル、

然ルニ此抵當證券法ガ實施セラル、

改正ヲスルコトガ適當デアルヤ否ヤト

云フコトヲ、私ハ慎重ニ研究シテ戴キ

タイト思フノデアリマス、單ニ是ガ一

時的ノ債權ノ整理ノ爲ニ、斯ノ如キ根

本法ヲ作ルト云フコトハ、其手續ヲ頗

ル遺憾トスルモノデアリマス、併シ是

レ以上其問題ニ付キマシテ問答ヲ重ネ

ルコトハ無益デアリマスカラ、ソレハ

止メマス、儲テ第三十條デアリマスガ、

是ハ他ノ委員ヨリ御質問ガアッタト思

ヒマスガ、即チ「抵當證券ノ所持人ハ債

務者ノ苦痛ト云フモノハ實ニ言語道

リマセヌガ、其流通ノ上ニ於テハ必ズ

流通サレル所ノ限度ニ於テハ、ソレガ

十億萬デアルカ、二十億萬デアルカ分

リマセヌガ、其流通ノ上ニ於テハ必ズ

三箇月内ニ強制執行ヲサレテシマフ、

債務者ノ苦痛ト云フモノハ實ニ言語道

リマセヌガ、其流通ノ上ニ於テハ必ズ

流通サレル所ノ限度ニ於テハ、ソレガ

十億萬デアルカ、二十億萬デアルカ分

リマセヌガ、其流通ノ上ニ於テハ必ズ

流通サレル所ノ限度ニ於テ

ヲ實施以前ノ分ガ、今申シタヤウニ金
ヲ借リテ居ルノデアルカラ、相當弱イ
ノデアリマスルガ、其弱イノハ、辨濟期
ガ來テ抵當權ヲ實行スルト脅カサレル
場合ニハ、仕方ガナイカラ抵當證券ノ
發行ニ同意ヲシマセウト云フコトニナ
ルデセウカ、ソレハ此制度ガナクテモ、
サウ云フ時ニハ内入ヲセヨトカ、或ハ
手形ヲ書換ヘロトカ強ヒラレルダラウ
ト思フ、デスカラ見方ニ依ッテハ、サウ
云フコトヲシナイデ、抵當證券ヲ發行
スルコトニ同意スルカラ、一ツ内入モ
何モナシニ我慢シテ吳レト云フ防禦手
段ガ出來ルノデハナイカ、即チ同意ス
ルカラ金ヲ融通シテ吳レト云フコトノ
出來ルノハ、債務者ノ方ニ便利ニナル
ノデハナイカト考ヘマスデスガネ

ノ長島局長ノ御話ニ依ツテモ、ドウモ此
發案者ハ大藏省ニ在ルヤウニ思フ、確
カ大藏省ガ銀行家ニ相談ヲシテ、勸業
銀行ノ重役トカ、或ハ農工銀行ノ幹部
重役トカ、或ハ北海道ノ拓殖銀行ノ重
役トカ云フモノニ迫ラレテ、到底是デ
ハヤリ切レヌ、何トカ一ツ證券化シテ
貰ハヌト云フト、不良貸ガ溜^マテシマッ
テドウモナラヌト云フ陳情ガ頻リニア
ツタト云フコトヲ私ハ聞イテ居ル、ソレ
カラモウ一ツハ、地方ノ銀行ガ資金ノ
融通ガ困難ニナツテ、支拂停止デモシナ
ケレバナラヌト云フヤウナ話ガ起ツテ
來タ、自分ノ有價證券デハ足ラヌ、所ガ
不動產ノ貸ガ澤山在ルカラト云フノ
デ、ドウカシテ證券化スルヤウニシテ
貰ヒタイト云フ陳情ガ出テ居ルト云フ
コトヲ聞イテ居ル、大藏省ハサウ云フ
風ナ意見ヲ附ケテ、斯ウ云フ法案ヲ出
シタモノト思ヒマス、是ハ債務者ニ付
テハ一向御考ガナイト思ヒマスガ、其
點ハ如何デゴザイマスカ、全ク是ハ銀
行業者保護ノ爲ニ計ツテ、不良貸ヲ整理
スル爲ニ作ツタモノデアルト思ヒマス
ガ如何デスカ

ヲ盡シテ茲ニ提案シタノデアリマスカラ、其提案シタ法案ニ付テ御審議ヲ戴キタイト思フ、ソレカラ次ニハ地方銀行カラ非常ナ請願デアルカ、陳情デアルカ、ソレガアツテヤツタノデハナイカ、斯ウ云フコトデアリマスガ、政府ノ見ル所ハ、地方銀行ダケデハアリマセヌ、廣ク不動産金融ノ全體ヲ見テ、斯ノ如キ立案ヲシタノデアリマス、銀行ガ之ニ依ツテ影響ヲ受ケルバカリデハゴザイマセヌ、曾テ御話致シマシタガ、不動産債權ノ額ハ六十二億ニ達シテ居リマス、其中デ銀行デナクシテ個人ノ貸付ニ係ルモノガ二十七億圓ニ達シテ居リマシテ、半分ニ近イノデアリマス、何モ銀行ダケヲ眼中ニ置イテ斯ウ云フ立法ヲシタノデハアリマセヌ、總テノ不動産金融ト云フモノ、上カラ見テ立案ヲシタノデアリマス

此法律ヲ作ル理由ガナイ譯デアリマス、私ハ是ガ社會上、國民生活ノ上ニ於テ重大ナル結果ヲ來シハセヌカト思フ、私ハ今此處デ民政黨ノ政策マデ持出シテ論ジマセヌケレドモ、要スルニ物價ガ大暴落ヲシテシマツテ、擔保價格ガ非常ニ下ッテ居ル、以前ナラバ普通ノ價格デ決済ノ出來ルモノデアッタモノガ、今日ノ不動產金融ニ依ル擔保ト云フモノハ、大部分ハ決済ガ出來ズニ在ル、斯ウ云フ場合ニ、斯ウ云フ法律ヲ實施致シマスト、サウ云フ債務者ハ殆ド其土地ヲ失ッテシマフ、此處デ又政策問題ハヤリマセヌガ、若シ假リニ或ル政府ガ出來テ、其政府ガ高物價政策ヲ假リニ採ル、或ハ頻リニ論ゼラレテ居ル新平價ト云フヤウナ議論モアルノデアリマシテ、兎ニ角高物價政策ヲ採ッタトスレバ、現在ノ債務者ハ抵當權カラ解放サレテ歩ンデ行カレルモノヲ、此法律實施ノ結果ハ土地ヲ失フコトニナル、斯ウ云フ法律ガナケレバ債權者ト債務者ノ間ニ於テハ多年ノ取引ノ關係、或ハ他ノ個人關係ニ於テ強制執行ヲシナイデ忍バシテ置クコトガ出來ル事情ガアルノデアリマス、ソレガ此法律ニ依ツテ、今ノヤウナ低物價ノ時分ニハ、借リタ時分ニハ相當ノ價格ガアツタモノガ、決済期ノ今日ニナルト暴落シテシマッタ、是デハ國民生活ノ實際ヲ

無視シテシマフ結果ニ相成ルト思フノ
デアリマシテ、是ハ要スルニ債務者ニ
取ツテハ非常ニ残酷ナ法律ト謂ハナケ
レバナラヌ、即チ井上大藏大臣ノヤッテ
居ル金融資本主義ノ政治カラ言ヘバ、金融資
又銀行偏重ノ政治カラ言ヘバ、金融資
本家、銀行業者サヘ宜ケレバ宜イト云
フナラバ、斯ウ云フ法律モ宜シイノデ
アリマセウガ、是デハ多數ノ債務者ガ
困ル、モウ是ダケシカ聞キマセヌガ、
御意見ガアルナラバ承リマス

○名川委員 私ハ前ニ於テモ申シテ置
キマシタガ、一寸聞キタイノデアリマ
ス、司法省ノ政府委員ガ御病中デアラ
レルト云フノデ、唯一言ダケ御伺致シ
マス、抵當權ノ設定者即チ土地ノ所有
者ガ、抵當證分ヲ裏書ニ依ッテ譲リ受ケ
渡スルコトハ許ス趣旨デゴザイマセウ
カ、ドウデスカ

○長島政府委員 其點ハ許サヌ積リデ
アリマス

○荒川委員長 是デ質問ハ愈々終結致
シマシタ、暫ク休憩致シマシテ、四時半
ヨリ再開致シテ、直ニ本案ノ討議ニ移
リマス

○板谷委員豫テ申上ゲテ置キマシタ
ヤウニ、私共ノ黨議ガマダ決定シテ居
リマセヌノデ、成ルベク早ク纏メテ討
論ニ移リタイト思フノデアリマスガ、

出来ダケ早ク致シマスカラ、時間ニ制
限ヲ附スルコトダケハ一ツ御許シヲ願
ヒマス

○荒川委員長 ソレデハ休憩致シマス
午後三時三十七分休憩

午後四時四十八分開議

○荒川委員長 是ヨリ休憩前ニ引續イ
テ會議ヲ開キマス、是ヨリ直チニ討議
ニ移ル順序デアリマシタガ、政友會ノ
方カラ御申出ガアリマシテ、承レバ明
日ノ本會議ニハ、是ガ假令本日議了致
シテモ明日ノ本會議ニハ上程ニ相成ラ
ヌカラ、旁々特ニ本日ハ此程度ニ止メ
テ、明日ノ午前十時カラ開イテ、直チニ
討議決定スル順序ニシテ貴ヒタイト云
フ希望ノ申出ガアリマス、只今副議長、
書記官長ニモ色々打合セラ致シマシタ
ガ、明日ノ上程ハ、縱令本委員會ガ終結
シテモ出來ナイサウデアリマス、一方
政友會ニ於テハ、本案ノ黨議ヲキメル
上ニ付テ、此場合審議ヲ延バシタイト
云フ御希望ガアリマシタカラ、本日ハ
此程度ニ措キマシテ、明日午前十時ヨ
リ開イテ、直チニ討議決定致シマシテ、
ソレヨリ一件本委員會ニ付託セラレテ
残ヅテ居リマスル無盡業法中改正法律
案ノ質疑ニ移リタイト思ヒマス、ソレ
モ成ベク出來レバ明日中ニ決定致シタ
イト思ヒマス、以上ハ各方面ノ諒解ヲ

キマシテ、皆サンニ此點ヲ確實ニ御諒
マス

午後四時五十二分散會

昭和六年三月四日印刷

昭和六年三月五日發行

衆議院事務局

印刷者

常磐印刷株式會社